

骨髄異形成症候群から急性白血病へ移行するモデル細胞株

検査診断学（病態解析）

教授

通山 薫 Kaoru Tohyama

キーワード

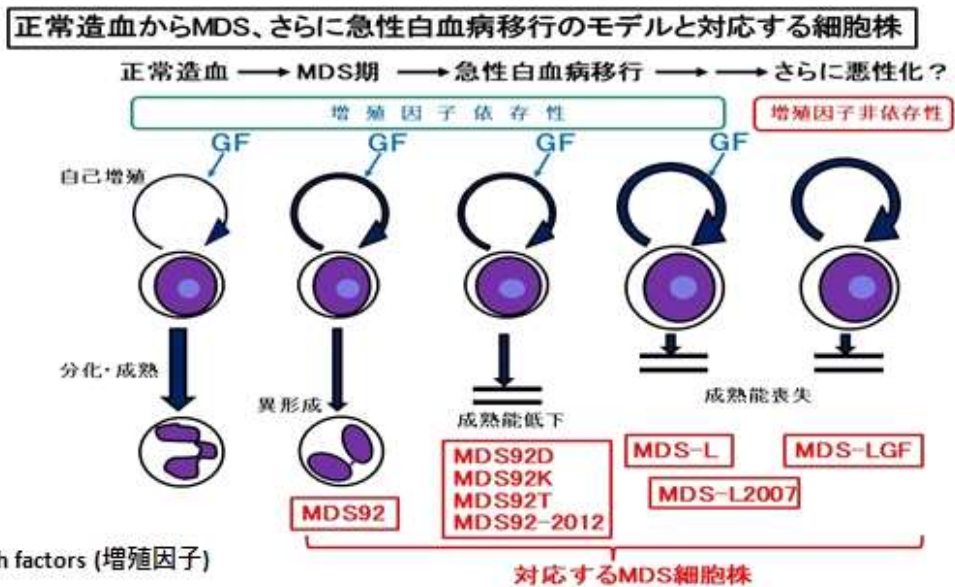
骨髄異形成症候群（MDS）、白血病移行、癌遺伝子、分子標的薬



シーズ内容

骨髄は全身を巡る血液細胞を産生する重要な造血組織です。骨髄異形成症候群（myelodysplastic syndromes; MDS）は骨髄中に生じた異常造血細胞が増加して正常造血が抑制された結果としておこる後天性造血障害で、臨床的には貧血・血球減少から骨髄不全に陥る一方、しばしば急性骨髄性白血病へ移行する予後不良の骨髄疾患です。主に中高齢者が罹患し、人口構成の高齢化に伴い次第に増加しつつある疾患ですが、造血幹細胞移植以外に根治的な治療法がなく、新規治療戦略が世界的に模索されている現状です。

当研究室ではMDSの白血病化機構と新規薬剤の作用機序の解析を主なテーマとしていますが、とりわけ世界的にも他に例を見ないユニークなMDS細胞株（MDS92、MDS-Lなど、MDSの段階から急性白血病への移行を反映する一連の細胞株ラインアップ）を独自に樹立しました。MDSから急性白血病へ移行する際の分子機構の解明やこの疾患の分子標的薬開発に有用であると考えています。



想定される産業への応用

MDSの段階から急性白血病へ移行する段階をとらえるバイオマーカーの発見、移行過程を阻止する分子標的薬の開発研究などに応用できる。

特許出願状況：未出願

【お問い合わせ】

川崎医科大学 産学連携知的財産管理室

Tel:086-462-1111 (内線:26030・26049)

mail: s-renkei@med.kawasaki-m.ac.jp